

# 食物経口負荷検査



食物経口負荷検査とは、食物アレルギーの“原因だと疑っている”または“原因だとわかっている”食物を実際に食べて誘発症状が起こるかどうか確認する検査です

## どうして必要なの？

- 食物アレルギーの診断をするために行う
- 誘発症状を起こさずに安全に食べられる量を確認するために行う
- 誘発症状を起こさずに原因食物を食べられるようになる「耐性」を確認する



## 検査方法について

固ゆで卵、牛乳、小麦（うどん）など原因と考えられる食物を、1回または2-3回に分割して、30～60分間の間隔をあけて摂取します。原因食物の最終摂取から2時間後まではしっかり症状の出現がないかを確認し、症状がなければ退院となります。

負荷試験中に誘発症状が出現した場合には、抗ヒスタミン薬の内服、気管支拡張薬の吸入のほか、必要に応じて注射や点滴を行います。

\* 誘発される症状は、じんましんや痒みなどの軽症のものから、嘔吐・腹痛・咳・喘鳴など様々な臓器に全身性にアレルギー症状がみられるアナフィラキシーと呼ばれる重症な症状まで様々です。

当院では基本的に日帰り入院で食物負荷試験を行います（症状出現時には1泊2日になることもあります）。

※原因食物（牛乳、卵黄、大豆製品など）を摂取して1～4時間後に嘔吐を繰り返しぐったりするタイプの食物アレルギーもあり、このタイプを疑う場合には、あらかじめ点滴をして1泊2日入院で検査を行います。